

研究・調査報告書

報告書番号	担当
462	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and kidney function decline in the elderly: Alcohol and kidney disease. 老人におけるアルコール消費と腎臓機能の低下： アルコールと腎臓疾患	
執筆者	
Menon V, Katz R, Mukamal K, Kestenbaum B, de Boer IH, Siscovick DS, Sarnak MJ, Shlipak MG.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Nephrol Dial Transplant. 25(10): 3301-3307 (2010)	
キーワード	
アルコール、腎臓機能、腎臓疾患、コホート研究	
要旨	
背景： アルコール摂取は心血管系疾患の予防になると思われる。しかし、アルコール摂取と腎臓疾患との関連については不明である。	
方法： 本研究は心血管健康研究（4つの米国地域社会からの65歳以上を対象とした縦断的、地域社会基盤コホート研究）における被験者4343人を対象とした前向き、コホート研究である。1週間のアルコール摂取のカテゴリ分類は： 飲酒しない、過去に飲酒していた、1杯未満、1-6杯、7-13杯、14杯以上である。シスタチンCは研究開始時点、3年目、7年目で測定し、対象として適格な被験者は少なくともこのうちで2回測定した。腎機能の評価はシスタチンCを基にして糸球体濾過量（eGFR(cys)）を計算した。主要評価項目は急性腎機能変化でeGFR(cys)の一年での低下が3 mL/min/1.73 ² /年とした。	
結果： 過去に飲酒の経験があったのはコホート全体のうち8%、現在も飲酒しているのは52%であった。平均観察期間の5.6年で、1075人（25%）の参加者で急性の腎機能低下が認められた。修正ロジスティック回帰モデルで評価すると、いずれの用量のアルコール使用でも腎機能低下との間に有意な相関は認められなかった。連続的成果としての腎機能低下の評価でも類似の結果であった。	
結論： 中等度のアルコール摂取は腎機能に関して、有害にも有効にも影響しないことが示唆される。	